

Measurement of prostaglandin metabolites is useful in diagnosis of small bowel ulcerations

松野, 雄一

<https://hdl.handle.net/2324/4060049>

出版情報 : Kyushu University, 2019, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : ©The Author(s) 2019. Published by Baishideng Publishing Group Inc. All rights reserved.

(別紙様式2)

氏名	松野 雄一			
論文名	Measurement of prostaglandin metabolites is useful in diagnosis of small bowel ulcerations			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	田口 智章
	副査	九州大学	教授	小川 佳宏
	副査	九州大学	教授	三浦 岳

論文審査の結果の要旨

非特異性多発性小腸潰瘍症は、組織学的に特異的所見のない慢性の多発性小腸潰瘍を特徴とする疾患である。近年、申請者らは本症がプロスタグランジン輸送体をコードする *SLCO2A1* 遺伝子の異常に起因する常染色体劣性遺伝病であることを明らかにし、新規に *SLCO2A1* 関連腸症 (CEAS) という疾患概念を提唱した。CEAS は遺伝子解析によって診断を確定することが可能となったが、本症とクローン病は小腸に多発潰瘍が発生する点で類似しており、両者の鑑別は臨床上しばしば問題となる。申請者らは過去の報告で CEAS 患者の尿中プロスタグランジン E 代謝産物濃度は健常人と比較して著明に高値であることを明らかにしており、本研究ではクローン病患者との鑑別における有用性を評価した。

20 名の CEAS 患者と 98 名のクローン病患者の尿中プロスタグランジン E 主要代謝産物 (PGE-MUM) 濃度について検討し、PGE-MUM 濃度はクローン病群と比較して CEAS 群で有意に高値であり ($P<0.0001$)、交絡因子 (年齢、性別、肺疾患の既往、手術歴、罹病期間、CRP) で調整しても同様に有意であった ($P<0.0001$)。鑑別するための最適なカットオフ値は $48.9\mu\text{g/g}\times\text{Cre}$ と算出され、その際の感度は 95%、特異度は 79.6%、AUC は 0.90 であった。PGE-MUM は、CEAS とクローン病の鑑別において簡便かつ有用な検査と考えられた。

以上の成績は炎症性腸疾患の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員により専門的な観点から論文内容及び、これに関連した事項につき種々の質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。なお、本論文は共著者 21 名であるが、予備調査の結果、本人が主導的役割を果たしていることを確認した。

よって、調査委員合議の結果、試験は合格と決定した。